

卷機山

上トントボ沢

4/28, 29. '85

メンバー： し 重田富士夫, 田中健
 4/28 昨年の雪に比べ、はるかに少なく、
 ドロ道の井戸尾根を冬の詠古を重田氏に聞きながら登る。1200mくらいから雪が出て、スキーツブで歩いた。スキーヤーが大勢いる。明日予定の沢は、雪が切れている。

日射しが強く、雪はグサグサでニセ巻木への尾根へのトラバースは、やや大変だった。このほか時間がかかり、巻木山の少し北側にツェルトを張ったのは3:20分。ガスの間に、牛ヶ岳が見えた。

4/29 快晴に恵まれ、谷川連峰、魚沼三山、苗場方面、尾瀬の山々、登山者も満喫していく。上トントボ沢の様子を見た、車の縦走路へ行くとずっと雪がある。下りの裏沢をトラバースして上トントボ沢に入る。斜度も適当だし、雪も8時をすぎ、少しやわらかくなってきた。快調に滑ると、ひと息で沢筋が終り、まん中の小尾根をくだるが、雪がグサグサだ。1150mの台地状で休息。沢の終りあたりで左からの下さなデブリがある。

トントボ尾根への、ブナ林の枝尾根を登る。下るに適切だ。1550mあたりはテント場にもよさそうだ。米子の頭への登りは雪がやわらかく、気を使つた。斜度はそれほどもなく、無事通過。縦走路を巻木山まで登り返し、井戸尾根を、井戸壁の上あたりまで滑る。

事故報告

【経過】

- 4/28 入山。雷鳥平より淨土山往復。
 標高差約600m。行動約3時間。
- 4/29 雷鳥平より真砂沢を経て内蔵助平往復。
 標高差 600m + 1000m。行動約12時間。
- 4/30 雷鳥平より剣ヶ嶺小屋を経て、剣沢(長次郎谷出合まで)往復。
 標高差 600m + 1000m。行動約8時間。
- 5/1 雷鳥平より真砂沢を経て、真砂沢。
 標高差 600m + 1000m。行動約6時間。
- 5/2 真砂沢より長次郎谷往復。
 標高差 約1200m。行動約8時間。
- 5/3 午前2:30 大量下血。午前8:45
 ヘリコプターにて富山市民病院へ。



4/28

タイム 清水 740 — 粟339 8:20/40 — 1450m
 11:20/1210 — =セ巻 2:000 — 頂上 320
 フサ

4/29 頂上 755 — 源頭 815 — 1150m 8:30/55
 上ナシネ
 — 1550m 10:10/30 — 米子頭 1125 — 頂上 125/210
 — 清水 440

(田中 記)

S60. 5.22

作野晃一

【情況】

入山前の健康状態は何の不安もなく、体力、気力共に充実していた。又、天候にも恵まれ連日行動をしていたが、肉体的疲労感および精神的ダメージも感じることなく全く快調であった。

昨年2月十二指腸かいようで11日間入院したが、昨年12月の胃カメラでの検診で完治していることを確認していた。又、最近仕事も定時向で残業もなく、規則正しい食生活をしていたのでこの点でも問題はなかった。

【発病の原因の考察】

十二指腸かいようは、一般的には精神的なストレスが原因で起ると考えられているが、今回の場合はそのような心当たりはない、あえて言うなら連日の行動により潜在的(自分でも意識しない)ストレスが蓄積されていたのが原因となたのかかもしれない。激しい運動も発病の引金になるのではないかと思われる。

今回の事故(発病)に対して、リーダーの遠山さん、メンバーの矢野さん、島田さん、石川さんに大変御迷惑をかけたことをお詫びするとともに、何から何までお世話になりましたことを感謝いたします。又、富山市民病院の退院の際には菅沼、遠山両氏に迎えにきていたことを厚く御礼申し上げます。

追記 ヘリチャータイプ(1°5') 29,200,-
 参考の為 ヘリの料金を追記します。

0612

150,000/4